

原小だより



横浜市立原小学校

平成29年 9月1日

9月号

つながりの中で豊かに育つ

校長 桃井 陽子

夏休みが終わり、子どもたちの声が学校に戻ってきました。がらんとしていた教室は子どもたちを迎え、一気に活力に満ち溢れたように感じました。やはり、子どもがいてこそその学校です。

夏休み中、原小学校の校庭では例年のように地域の行事が行われました。7月23日(日)は阿久和南部連合自治会恒例の「まち」のお祭り「南部まつり」でした。夏の空に響き渡る開催を知らせる威勢のいい花火の音。各自治会による模擬店。子どもたちの「鳴子踊り」や「ソーラン節」の発表。隼人高校の高校生による「和太鼓」等の活動披露。正にふるさとの風物詩。やぐらを囲んで子どもも大人もお祭りを楽しみました。8月5日(土)は青少年指導員や子供会、スポーツ推進委員他たくさんの方がかかわってくださっているディ・キャンプ。キャンプファイヤーでは、野外活動指導員の方がエールマスターをやり、子どもたちは体全体でゲームや遊びを楽しんでいました。

放課後キッズクラブでは、休み中も様々なプログラムが用意されていました。キッズの部屋を覗くとそこは別世界。異学年が交じり合って遊び、それはそれは楽しそうでした。すいか割りに、水鉄砲大会、キックベース、いきいき教室2017、家庭科室でお弁当作り等。キッズクラブのスタッフはもちろん、様々な立場の方が連携しながら子どもたちにかかわってくださいました。

7月31日(月)には、三ツ境小・阿久和小・二つ橋小・原小の4校が本校に集まり、瀬谷区小学校水泳記録会が行われました。4校の子どもたちが水しぶきを上げながら、自分の記録に挑戦。今年の記録会で素晴らしいなあと感心したのは子どもたちの泳ぎ切る姿はもちろんのこと、自分の名前が呼ばれた時の手をまっすぐあげながら「はい!」という返事と気持ちのよい応援の声です。自分の学校の仲間だけでなく、他校の仲間にも精一杯の声で応援をしていた子どもたち。とても清々しい思いでいっぱいになった私です。その中で、50M自由形に生明史帆さん(5年)と吉田秋司さん(6年)の2名が瀬谷区の代表に選ばれ、8月24日(木)に横浜国際プールで開かれた市小学校水泳大会に出場しました。自己ベストを目指した力いっぱいの泳ぎをすることができました。また、飼育小屋には愛着をもってウサギやニワトリに声をかけ、汗だくになりながら掃除をしたり水やえさをあげたりしている、飼育委員の子どもたちの姿がありました。

8月28日(月)夏休み明けの初日、教室を回ってみました。その一部を、紹介します。7組では、それぞれの教室で個別学習。「みんなに聞こえる声でゆっくりはっきり」「話す人を見る」をめあてに、何をしたのかどこへ行ったのか、夏休みのことを話す1年生。2年生は初日からプール!(みんな、水着、忘れずに持ってこれたかな?)席替えで盛り上がる3年生。あまりのある割り算の筆算の復習に取り組む4年生。5年生は話し合い活動。「高学年としてめあてを立てよう」黒板には、ふれあいコンサートから卒業式の参加まで行事が書かれ、ふれあいコンサートを成功させるための自分のめあてを考えていました。(ゴールは卒業式への参加。来年は原小のリーダーとしてスタートです!よろしく!)タブレット端末の写真機能を使い、撮った写真を図工の学習で活用するためにタブレット端末の使い方を学ぶ6年生。どの教室も教師と子ども、子ども同士が作り出す空気であふれていました。

今年の3月、2020年に全面実施となる新しい学習指導要領が告示されました。

今回の学習指導要領改訂は、2030年の社会を見据えています。2020年に10歳で5年生を迎える子どもは、2030年前後に20歳を迎えることとなります。子どもたちがこれからの変化の激しい社会を生きるために必要な力の育成をめざすため、また社会との連携・協働を大切にしながら学校の特色づくりを図っていくために、より一層、学校が社会との接点をもちつつ、多様な人々とのつながりを大切にしながら学ぶことができる、開かれた環境となることが不可欠であるとしています。

原小学校の子どもたちは、様々な人とのつながりに支えられながら学校生活を送っています。このことに感謝しつつ、さらに地域に開かれた学校をめざします。前期後半の学校生活が始まりました。9月は前期のまとめの月です。夏休みならではの体験を心の栄養として、また学ぶ力の基にして学校生活に活かし、さらなる成長につなげていけるよう教職員一同取り組んで参ります。

引き続き、保護者の皆様や地域の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

原小だより



横浜市立原小学校

平成29年 9月29日

10月号

行事を通して育つ力

副校長 高嶋 聡

校庭の木々が色づき始め、着実に秋に近づいていることを感じる毎日です。前期も残すところあとわずかとなりました。前期の自分の姿を振り返り、10日から始まる後期に向けて新たに目標をもつ時期として1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。

さて、後期に入ると12日、13日には5年生が御殿場宿泊体験学習へ、23日、24日には6年生が日光修学旅行へと出かけます。11月には、4年生と個別支援学級も宿泊体験学習に出かけます。初めての土地、初めての施設、そして何より親元を離れて長い時間を友だちと共に過ごすことを子どもたちは多少の不安を感じながらも、とても楽しみにしていることと思います。当日に向けて実行委員の活動なども始まっています。準備の活動を通して子どもたちの期待も徐々に高まっていくことでしょう。

私は、このような行事は子どもの集団の質を高める絶好の機会だと考えています。子どもたちは、学校では学級・学年という集団を中心にして生活しています。学校生活がより楽しく充実したものになるためには、集団の質を高め、生き生きと活動できる場となるよう努めることが不可欠です。秋に行われる宿泊行事等は、学級や学年という集団の質を高める大きなチャンスです。

これらの行事を通して育てたいのは『仲間意識』『気を配る心』『責任をもって成し遂げる力』などです。

班行動では、仲間として助け合い、協力し合う『仲間意識』が無くてはきちんと前に進むことはできません。行事の中の様々な場面で、一人ひとりの子どもが、自分の役割ではリーダーとして活躍するとともに、他の人の役割についてはフォロワーとして協力していくことが必要です。そのような気持ちを自然に生み出し、一人ひとりの資質を高める力を学校行事はもっています。

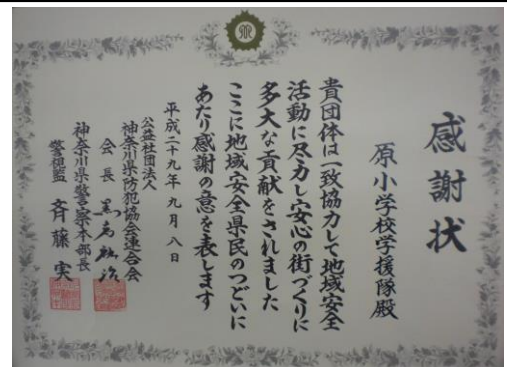
『気を配る心』も、共通の目標をもち、一緒に何かを創りあげる過程で養われます。自分のことだけを考えるのではなく、集団のために動くことの大切さ、あるいは仲間に迷惑をかけないようにまわりや自分自身をしっかり見つめることの大切さを実感するととても良い機会です。

また、実行委員会の取り組みや班行動では、子ども一人ひとりの『責任をもって成し遂げる力』が試されます。集団の一人ひとりが、役割をしっかりと分担し、責任を果たしていくことが行事の成功には欠かせないということを体験を通して学ぶことができます。

このように、わずか2日間という短い時間ですが、宿泊行事は子ども一人ひとりの経験値を高めるとともに、集団としての質を高めるとも大切な機会です。また、行事を通して、集団に対して自分が価値ある存在であることを感じる事ができれば、学校生活をより楽しく充実したものにしていくことができると思います。

実りの秋。宿泊行事を含め、様々な行事を通して子どもたちの中に多くの実りがあることを期待しています。

この度、学援隊が「地域安全県民のつどい」9月8日（金）神奈川県立音楽堂にて表彰されました。
学援隊の皆様が日頃行っている活動が評価されたということで大変うれしく思います。
今後とも、地域の安全、子供たちの安全を守るため、**お力添えください。**



原小だより



横浜市立原小学校

平成29年10月31日

11月号

「いま」「ここ」を大切に・・・

校長 桃井 陽子

今年の10月の記録的な雨量は、日本各地で大規模な災害をもたらせてしまいました。特に台風が接近した10月の後半は各地で雨の降る量が増え、土砂災害が発生。その爪痕の大きさには言葉を失うほどでした。

原小学校でも雨風が強かった次の日は特に落ち葉が多く、そんな中、学援隊の方々が正門周りをきれいにはいてくださったり、その天気の間をぬって、花ボランティアの皆様が円形花壇や職員室玄関前等に秋植えの色とりどりの花を植えてくださったり、本当にありがたいことと実感しています。

さて、10月19日は原小学校の創立記念日です。16日は、原小学校74周年をお祝いする創立記念式でした。今年度は、昭和51年度卒業生の相澤 剛さんにお話をお願いしました。相澤さんは造園業を営まれ、原小学校の樹木のお世話や芝生の管理をいただいています。原小学校には220本・45種類もの樹木があること。学校創立時に地域の方が、学校やここで育ちゆく子どもたちを思い、木を寄付してくださったこと。このように一本一本の樹木に地域の方の願いがこもっている、しかし樹木にも寿命があり、伐採をしなければならない木もあること。ところが、その伐採した桜の木の切り株の中から、新しい芽が出ている事実に触れられ、生命の強さや生きるという大切さについて話されました。子どもたちは相澤さんのお話を熱心に聞き、自分の命はもちろん仲間の命も大切にすること、そして、この緑に囲まれた原小学校が、地域の学校を愛する思いや願いの中で、今につながっていることを感じ取ることができました。

後期が始まって約一ヶ月。後期は、子どもたちにとって次の学年につながる準備の時間です。後期の時間の積み重ねが次の学年のスタートにつながるからです。6年生は、いよいよ中学生。新しいステージに自分を置くことになります。学年に応じて3月のゴールの時、どんな自分になっていたいか、自分のゴールの姿を具体的に思い描いてほしいと思います。

原小の学校教育目標の一つに「地域の人やものを大切にし、正しい判断をする子どもを育てます(公)」があります。子どもたちには、今、この時、どうしたらよいか、考えて動くこと。今、したいこと、しなければいけないこと、してはいけないこと、望ましい行動を考えて動くこと。「いま」「ここ」をどうするか、しっかり自分で判断して行動する、あと約半年、このような時間を積み重ねてゴールを迎えてほしい。このような気持ちで後期始業式の時、相田みつをさんの詩を紹介しました。

アノネ、昨日という日は
過ぎてしまってもうないんだよ。
そして明日のことは明日に
なってみなければわからない。
大事なことはね いま、ここ、を
具体的にどう動くか、それが大事
みつを

相澤さんのお話にもあったように、原小学校は地域に愛され、支えられ、その中で心豊かに育つ子どもたちを温かく見守っていただいています。学校の周りの大きく育った樹木を見上げると、「がんばりなさい。ずっと応援していますよ。」という地域の方の温かい声が聞こえてくるようです。11月1日は、様々なボランティアという形で学校に関わってくださっている方々の活動を知り、感謝の気持ちを伝える「ありがとう 笑顔で伝える感謝の会」を今年度も予定しています。

引き続き、保護者の皆様や地域の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。